

## ICT分野の推進戦略の検討に当たって

平成17年12月6日

NICT 大森慎吾

ICT分野の推進戦略を検討するに際しては、「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（案）に記述されている全般的な考え方に加え、以下の点が重要である。

- 1 モバイル、インターネットをはじめ、ICTは国民一人一人の生活に欠くことのできないものとして浸透し、国民・社会生活の基盤となっている。今後、「人々」「人とモノ」「モノとモノ」のネットワーク技術、コミュニケーション技術、安心安全にICTを活用する技術を一層強化していくことが必要。
- 2 ICTは、我が国産業別市場規模において最大の規模を占めているのみならず、我が国の強みである高付加価値性、技術力を一層発展させていくための技術基盤となるもので国際競争力の維持・強化・イノベーションに貢献することが必要。また、医療、環境、防災等社会的懸案を解消するための技術基盤として社会面でも貢献することが必要。
- 3 諸外国においてもICTを発展のための最重要技術と位置づけ、国を挙げて研究開発を推進していることから、我が国でもICTへのより一層の研究開発投資、人材育成が必要。
- 4 ICTは技術進展が速いと言われる分野であるが、一つの重要技術が具体的な形になるには時間がかかる場合もあること（インターネット、光ファイバなどは基礎研究から実用化まで20～30年を要している）から、中長期的視点をもって5カ年の戦略を策定することが必要。
- 5 我が国が持続的な発展をするためには、独創的な技術、世界最先端の技術、社会に役立つ技術などが継続的に実現していくことが重要。将来のICT発展のため、基礎的研究への投資は必要。
- 6 ICTはシステムとして実現してこそ、国民・社会・世界に貢献することができる。第二期中の分野別推進戦略においてもシステム構想・構築力の重要性が指摘されていたが、第三期においてもシステム技術への投資は必要。

以上

「科学技術に関する基本政策について」に対する答申（案）抜粋

（２）分野別推進戦略の策定

重点推進４分野に該当する研究開発であっても十分な精査なくして資源の重点配分を行うべきではなく、また、推進４分野での研究開発であっても精査がないままに投資の戦略的配分の対象から除外することは適切ではない。そこで重点推進４分野及び推進４分野について、総合科学技術会議は、政策目標の実現に向けて、８分野それぞれの分野別推進戦略を、以下のような分野内の重点化の考え方に基づいて策定し、各分野において重要な研究開発課題を選定する。その際、網羅的・包括的な研究開発課題の設定とならないよう十分に配慮する。

- ① デルファイ調査などにより科学的インパクト、経済的インパクト、社会的インパクトを軸とした将来的な波及効果を客観的に評価すること。
- ② 我が国の国際的な科学技術の位置・水準を明確に認識（ベンチマーク）した上で投資の必要性を明確化すること。（強みを活かし競争優位を確実にする研究開発課題なのか、強い社会ニーズがあり課題解決すべき研究開発課題なのか、パラダイムシフトを先導する研究開発課題なのか等）
- ③ 知の創造から社会・国民への成果還元に至る各々の研究開発の段階に応じて、本計画で設定された政策目標達成への貢献度、達成までの道筋等の観点から、投資の必要性を明確化すること。
- ④ 官民の役割を踏まえ、研究開発リスク、官民の補完性、公共性等の観点から、投資の必要性を明確化すること。